



過去問特訓→チーム学校としての授業改善で
学力を上げたい先生にオススメ

現場職員が授業で解き方指導をできるようになり、
子どもたちが自己の能力を発揮できるようになる

椿原正和の

【高知県教育委員会後援】

全国学力・学習状況調査をふまえた授業改善セミナー

全国42会場すべて定員超えの大人気セミナー。好評につき全国都道府県10会場限定で第3期開催決定！高知県がその1つに選ばれました！！

2018年2月10日(土)

【主催】TOSS高知 【後援】高知県教育委員会、高知市・南国市・香南市・香美市の各教育委員会

高知市文化プラザかるぽーと 9階学習室

講座 13:30～16:30(受付13:00)

資料代 2,000円

ポイント1 どの子ども同じ土俵で取り組める

◇全国の公立学校で、子ども相手に授業をした実績のある内容です。学力調査の際、子どもがすぐあきらめたり解答欄が白紙だったりする光景をよく見かけます。多くは学力以前の問題で、情報量の多さに戸惑っているのです。全ての子どもが問題に立ち向かうための指導法を提案します。

ポイント2 「解き方」には基本がある

◇学力B問題の長文読解は「物語文」「説明文」「PISA型」の3パターン。それぞれのパターンに対応した解き方のポイントを3つずつ提案します。「丸で囲む」「線で結ぶ」「書き込む」など、子どもたちが作業をしながら答えを導き出せる解き方です。

ポイント3 「チーム学校」で取り組める

◇担任だけでなく、管理職、指導主事、研修主任の皆様にご参加いただきたい内容です。熊本では、参加された管理職の学校で、開催後1ヶ月以内に2校の校内研修会と6会場のセミナーが実施されました。島根県の学校では、6名中2名が100点という結果が出ました。チームで取り組むことができ、授業改善に生かすことのできる内容です。



| | |
|-----|---|
| 講座1 | <p>学校全体で学力向上に取り組むことで生まれた「子どもの事実」 →相良南小学校(熊本県)で、記述式問題を全員が解けるようになったのはなぜか？その取り組みを紹介します。</p> |
| 講座2 | <p>子どもが問題を読むようになる 「条件付き問題」の授業 →条件付き記述問題では、問題を読み、条件を満たしながら書く必要があります。どのように指導すればよいのか、実際に子どもの解答用紙を示しながら解説します。</p> |
| 講座3 | <p>作業によって「問題をよく読む」ようにする PISA型問題の授業 →全国学力テストを用いた授業実践を再現します。○で囲む、線で結ぶ作業で、消去の仕方、選択肢問題の正答率が高くなります。</p> |
| 講座4 | <p>全員が記述式問題で満点をとれるようになる 「書き込み」の指導 →物語文教材を用いて、読みを深める方法を提案します。設問文に「書き込み」をすることで理解が深まります。</p> |
| 講座5 | <p>学校にB問題対策システムを導入するイロハ →学力向上は「チーム学校」で行うこと大事です。全国学力テストを目的にするのではなく、目指す力を育てるための日常の授業改善などを、校内研修の映像をもとに解説します。</p> |
| 講座6 | <p>Q&A →皆さまからのご質問にお答えします。</p> |

参加された校長先生からお手紙をいただきました

椿原先生との出会い、そして学んだこと

私は今でもあの衝撃を忘れることができない。8月上旬の夜に開かれた椿原塾。失礼ながら、わたしはそれまで椿原先生のことを全く知らなかった。私はほんの軽い気持ちで参加したのだが、「どうせ私費を払って参加するなら一番前の席を取って下さい」と事務局の先生にお願いし、会場入りした。

約2時間の授業。教育にかける熱さだけなら負けない自負はあるのだが、椿原先生には、それに理論と実践が加わっていた。参加者全員が、全学調の国語B問題の過去問を解いていったのだが、授業の小気味よさがたまらなかった。椿原先生は、他の先生と同じように校長である私にも何度も指名した。残念ながら半分程しか答えられなかったのだが、はずかしさはあまりなかった。実践に裏打ちされた理論と理論に基づいた実践。このような実践を続けることができるなら、子どもたちは絶対に力をつけることができると思った。

当日は本校から私を含めて4名の教師が参加していたのだが、椿原先生をぜひとも本校の校内研修の講師に招聘したいと考え、その日のうちに交渉し内諾を得ることができた。

8月31日、椿原先生を本校の校内研修にお招きし、15:00～16:30の90分間、本校の先生方に授業をしていただいた。内容は、椿原先生の学級経営等の実践の紹介と全学調の国語B問題の過去問を解いていくこと。授業の熱さと小気味よさは前回同様であった。先生方一人一人の感想等を聞くことができなかったが、私同様衝撃を受けておられたことは間違いない。

その後本校では、12月の県学調(ゆうチャレンジ)に向けて、合計7回国語B問題の過去問の解き方・考え方の指導を3年生以上の全クラスで行った。学校全体として、国語の「読むこと・書くこと」に関しては、満足する結果を得ることができた。やはり、教師がきちんと指導したこと、子ども自身が解き方を理解できたことは、結果として返ってくることを実感した。

次年度は、本校の子どもたちに直接指導していただきたいと密かに考えている。

椿原先生には、感謝の気持ちでいっぱいである。

熊本県公立小学校校長

講師紹介



椿原正和

熊本大学大学院教育学研究科教育専攻修了
現在、熊本県公立小学校教務主任
日本教育技術学会理事、TOSS授業技量検定九段
向山型国語専任講師として全国各地で講師を務める。
熊本県内だけでなく、県外でも多数の校内研に呼ばれ、飛び込み授業や講演を行っている。

参加された管理職・行政職の方々の感想

①衝撃的なセミナーでした。B問題に具体的な解き方や答え方があり、子どもたちへの指導法があるとは驚きでした。このような提案は、日本初だと思います。本校の職員や子どもたちに一刻も早く伝えたいです。(広島・小学校校長)

②〇で囲む、線で結ぶ、書き込むという作業を介する極めて明確な答え方、解き方の指導でした。今、中学校では高校入試に向けてそれぞれの教科で取り組んでいます。その指導としても有効であると感じました。本校でも椿原先生をお招きし、研修ができるようになればと思います。(北海道・中学校校長)

③椿原先生には、市内の先生方に話をしていただきたいと思います。(市教研の研修会等で)よろしく願いいたします。(鳥取・教頭)

④現場の教師が今日のような指導を日々やっていると、達成感もてる子どもが増えると思います。子どもの現状も必ず改善していけると感じました。(島根・指導主事)

⑤B問題は「解きたくない」「採点したくない」と思っていたが、この講座を受けて、まったく逆の思いになりました。一人でも多くの教師に、多くの学校に広まっていくことを願います。知り合いの校長先生や研究主任に伝えるなど、できることをしたいと思います。(愛知・指導主事)

会場

高知市文化プラザかるぽーと

〒780-0832 高知県高知市九反田2-1

電話：088-883-5011

| | |
|--------------|---------|
| お名前 | |
| ご勤務校 職名など | 立 学校 職名 |
| ご住所 | |
| メール | @ |

①メールフォームでお申込。簡単なので、おすすめです！
http://tosskochi.net/?page_id=153



②左の欄にご記入の上、FAXでお申し込みください。
020-4663-8980

③直接事務局へ 担当：藤崎 fujisaki.fumiko@toss2.com
050-3557-1324

FAX申込先 020-4623-5942

このままFAXどうぞ

